

さんりく 明日へ

東日本大震災を乗り越えて、前に進むとする三陸の人たちからのメッセージを届けます。

鵜鳥神楽の若き後継者

笹山英幸さん

今春、普代村職員となった笹山英幸さん。社会人になると同時に、村に伝わる鵜鳥神楽に本格的に取り組み始めた。釜石市出身の笹山さんは、神楽に導かれるように、この村の住民に。今では、鵜鳥神楽を継承するホープとして、村民の期待を集めている。

鵜鳥神楽との出会いは、3歳のとき。神楽衆は毎年、正月8日頃に出発し、沿岸各地で祈りを捧げる。実家のある釜石市は、南回り巡業の最南端だ。「かつこよくて、憧れて、神楽衆について歩いていました」と振り返る。父親が地元の神楽に取り組んでいたこともあって、やがて自宅は神楽衆を泊める「神楽宿」となった。

かつこよく、美しく舞い、時代をつなぎたい

盛岡の高校に通っているとき、震災に遭った。幸い家族は難を逃れた。震災2日前、家族が鵜鳥神楽の夢を見ていたという。「あそこでその話を聞いたとき、神様が守ってくれたのかなと思いました」と、笹山さん。憧れだった神楽に対する想いが強くなった。

鵜鳥神楽の演目は50を超える。まだまだ覚えることが多かった。それでも、「舞う以上はかつこよく、3歳の自分がぞつこんになったように、憧れの対象になりたい」と、自分の稽古と小学生への指導を欠かさない。「神楽衆はナルシストだから」と笑うが、神楽が地域の絆を深め、心の支えになることを、ちゃんと知っている。



古くは修験者の霊場で、三陸の人々から漁業の神として信仰を集める鵜鳥神社を拠点とする鵜鳥神楽。現在は、12人の神楽衆によって傳承されている。来年1月、震災後に自粛してきた南回り巡業を3年ぶりに再開させる。沿岸7市町村で、家内安全や大漁、海の安全を祈る。

鵜鳥神楽保存会
岩手県普代村第25地割字卯子西13
鵜鳥神社内

